

研究題名	モルヒネ塩酸塩の脊髄くも膜下単独投与による周術期疼痛管理の検討
研究機関名	武蔵野赤十字病院
研究責任者	所属 麻酔科 指名 山崎由美子
研究期間	臨床研究倫理委員会承認日～2025 年 12 月
研究の意義・目的	当院では、2024 年末よりフェンタニルの供給不足の影響をうけ、今まで同薬を使用することが多かった周術期の疼痛管理において、代替薬剤とその投与方法を模索している現状がある。モルヒネ塩酸塩の脊髄くも膜下投与（以下脊麻モルヒネ）は、古くから帝王切開の脊髄くも膜下麻酔時に行われているが、モルヒネ塩酸塩の他の投与経路と比較してごく少量で長時間良質な術後鎮痛がえられることが知られている。今回我々は、腹部手術において、脊麻モルヒネによる周術期疼痛管理の有用性と安全性を確認するためにこの研究を計画した。脊麻モルヒネは、フェンタニルによる術後鎮痛法の代替としてとしてのみならず、当院で増えつつある低侵襲手術や重症患者の全身管理においても有用であることが予測される。
研究の方法 (対象期間含む)	2019 年 2 月から 2025 年 11 月の間に当院で行われた腹部手術における周術期鎮痛方法を振り返り、疼痛スケール、副作用（嘔気嘔吐、掻痒感、頭痛、呼吸抑制）の頻度、合併症（神経障害）の頻度、介入を要する循環変動の頻度、追加鎮痛薬の使用状況を比較検討する。
①試料・情報の利用目的および利用方法 ②利用し、又は提供する試料・情報の項目 ③利用する者の範囲 ④試料・情報の管理について責任を有する者の氏名又は名称	① 上記目的と方法で検討を行うために、電子カルテより②の項目の情報を収集する。これらには個人を特定できるような情報は含まれていない。 ② 年齢、性別、診断名、術式、身長、体重、疼痛スケール、呼吸回数、嘔気嘔吐の有無、掻痒感の有無、頭痛の有無、神経症状の有無、介入を要する循環変動の有無、追加鎮痛薬の使用状況（時間、量） ③ 研究責任者、研究分担者 ④ 武蔵野赤十字病院 麻酔科 山崎由美子 武蔵野赤十字病院 院長 黒崎 雅之
問い合わせ先	当研究に自分の情報利用を停止する場合等のお問い合わせ 〒180-8610 東京都武蔵野市境南町 1-26-1 武蔵野赤十字病院 麻酔科 氏名 山崎由美子 TEL 0422-32-3111 6771(事務局内線) TAX:0422-3-3525